

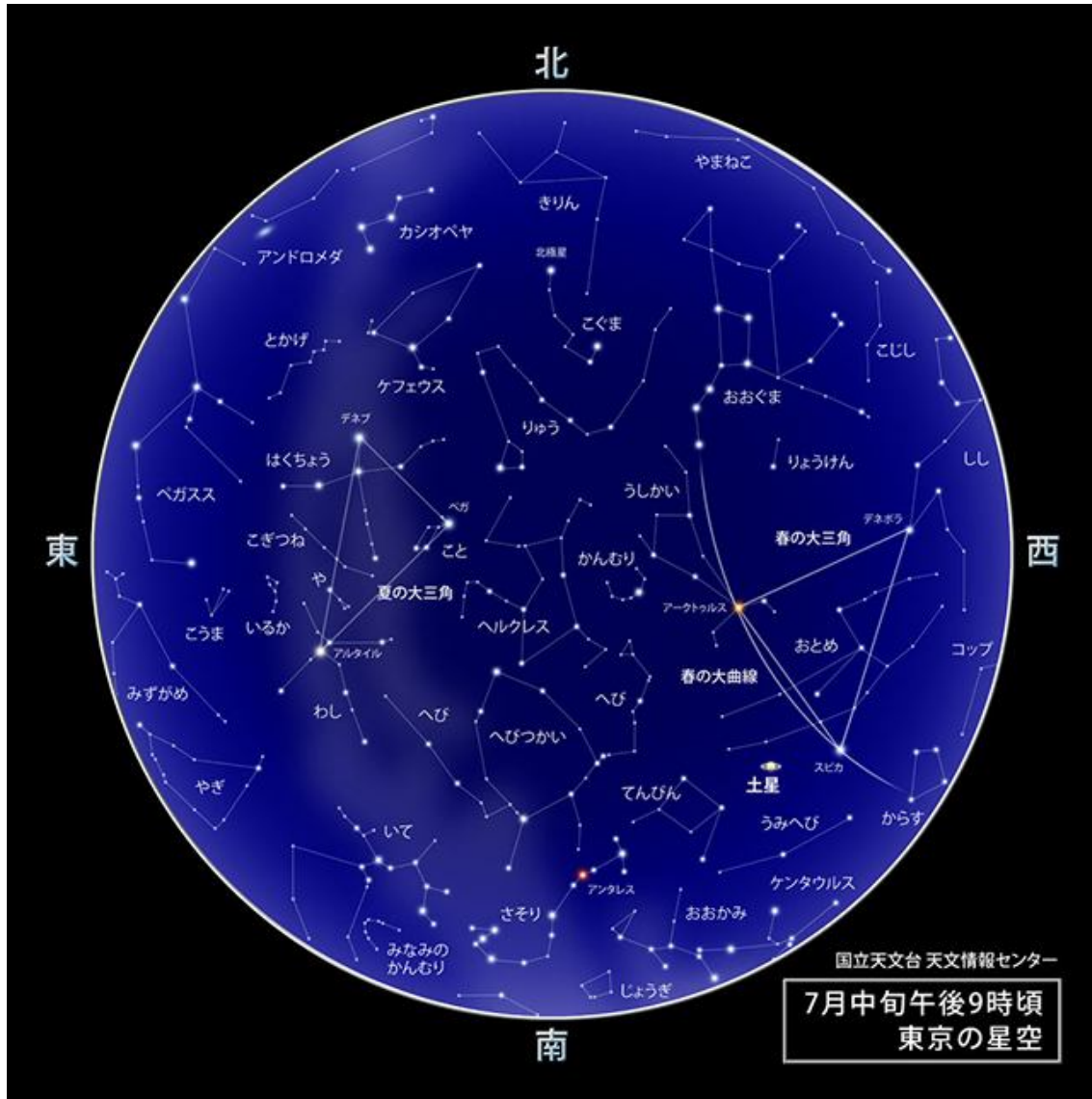
7月も中程になれば、梅雨空とのお別れもすぐそこですね。

梅雨が明ける頃には、気が付かないうちに夏の星座が昇ってきています。

西の方にはおとめ座等の春の星座がまだまだ見えていますが、南の空に目を移すと夏の代表的な星座さそり座が凜として輝きを放っていますね。

また、いて座、わし座、こと座、白鳥座など明るい星が多い星座が目につきます。

この夏空を、にぎわせる星座を空が暗い所でよく見ると、これらの星座をつなぐ様に白っぽい雲の様な物が見えます、これが天の川（銀河系を真横から見ているので、暗い小さい星々が連なって雲の様に見える。）都会ではなかなか見られる物ではないので、これが見られる場所に居られる方はある意味幸せですね。



今月の惑星

水星

7月上旬から中旬は見かけの位置が太陽に近く、観察には適していません。下旬になると日の出時の東の空の高度が10度を超え、7月30日に西方最大離角となります。7月下旬の明るさは、2.3~0.1等。

金星

日の入り直後の西の低空に見えます。日の入り時の高度は20度ありませんが、明るく輝いているので見つけやすいでしょう。明るさはマイナス3.9等。

火星

日の出前の東の低空に見えます。7月上旬は日の出時の高度が15度ほどですが、下旬になると20度ほどになります。おうし座からふたご座へ移動し、明るさは1.5等～1.6等。

木星

7月上旬は見かけの位置が太陽に近く観察できませんが、中旬になると日の出時の高度が15度を超えるようになります。ふたご座にあり、明るさはマイナス1.9等。

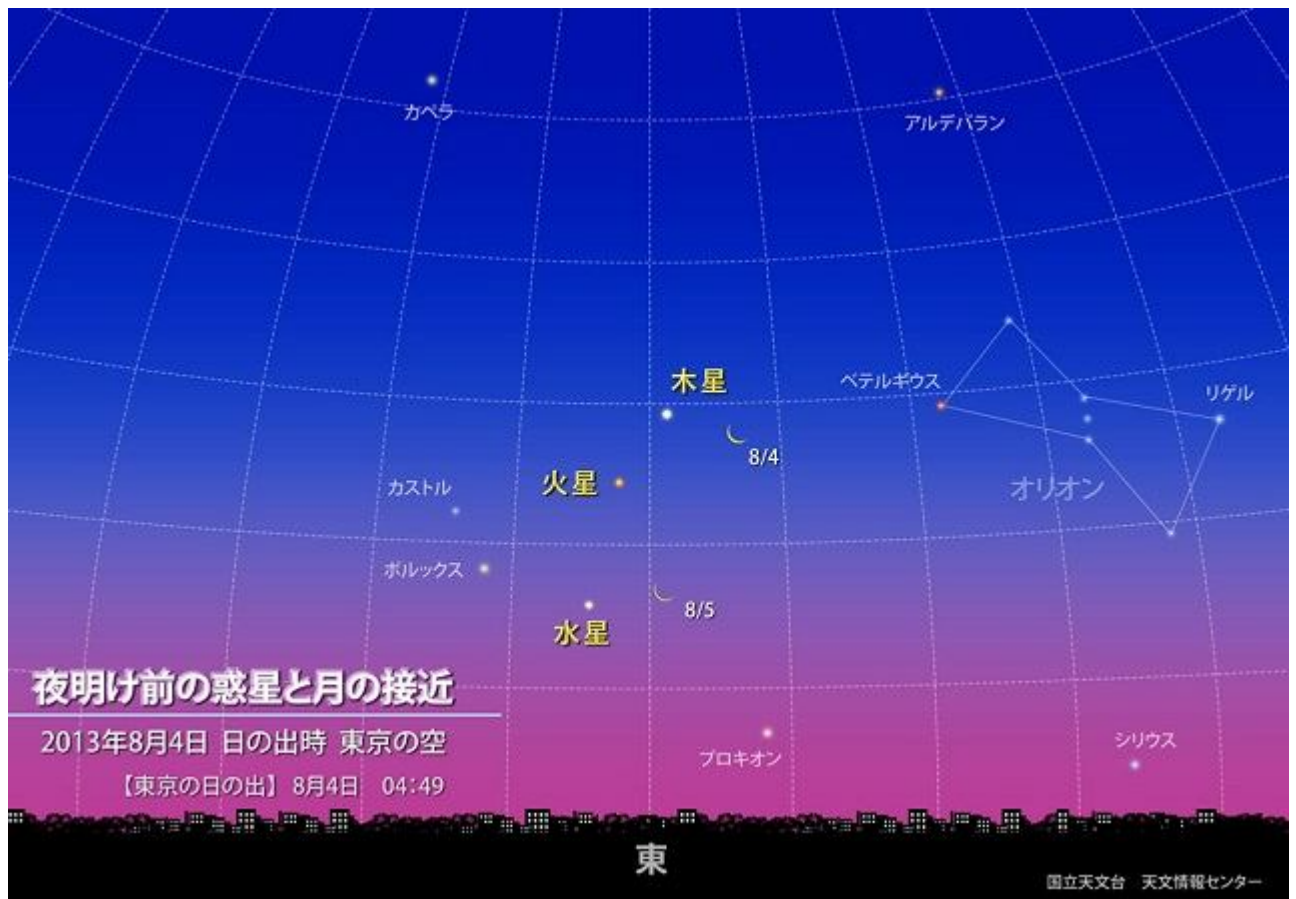
土星

日の入り直後の空で、7月上旬は南に、下旬は南西に見えます。おとめ座にあり、明るさは0.5等～0.6等。

比較的観望に適しているのは宵空から見える金星と土星でしょうか、特に土星は8倍程度の双眼鏡でも何となく耳が有る様な感じで環が見えると思います。

その他の惑星は残念ですが早起きをして見るしかありません。

(明け方にはもう冬の星座が見え始めています。)



季節も天体観望に適した時期を迎えつつあります、ぜひ、肉眼あるいは双眼鏡でも十分なので少しでも目を上に向けてみてください、きっと何かを見つける事が出来ると思います。毎月各地の教育館、科学館で星空観望会等の催しものがあるので参加をしてみてください。望遠鏡を使う所も多いので月面のクレーター、金星、土星の環、星雲星団の生の姿を見せてくれることでしょう。